

朝晩の急激な寒暖差によって街路樹も紅葉が進み、桜もイチョウも落葉が始まりました。あんなに熱かった夏が、わずか数ヶ月にもかかわらず遠い日のように感じられます。

さて、待降節に入りクリスマスの準備に心が向かう頃に夏の報告は、Just Now ではありませんが、各小教区の皆さんに支えられて、今年度も無事に終了することが出来ました「ふっこうのかけ橋2016」合同キャンプの報告をさせていただきます。昨年12月からの約半年、月一回のペースで開催された実行委員会は、神戸地区の教会学校リーダーや福島に思いを寄せている人、また呼びかけにこたえて集まった青年達で構成され、それぞれが役割を分担し合い計画を練って来ました。5/7には2名の実行委員が福島を訪問し、実質的な福島側の責任者となってくださっていたコングレガシオンのシスター方や教会学校のリーダー、参加経験のあるお母さん方と懇談会を持ち、旧交を温めつつ、これまでのプログラムの振り返りや今後の進め方（神戸からの提案と福島からの希望）などが熱心に話し合われました。松木町・野田町の両教会ともに司祭の移動や信徒会の役員交代などで慌ただしくされている折でしたが、快く機会を提供くださいました。

こうして話し合われたことを軸に神戸地区の教会学校に合同キャンプへの参加を呼びかけ、六甲山を満喫するプログラムが作成されました。神戸っ子にとって六甲山は生活の中に溶け込んだ身近な山です。これなら子供達にもこなせる登山が出来るだろうと布引からトゥエンティクロスを経由して「自然の家」着の構想を練り、下見を重ね、ジュニアリーダーとして応援を依頼した六甲学院の高校生10名と神戸地区の登山有志の方々と共に実際のコースを歩き、ポイントの確認を行ったりしました。

当日は9時半に神戸中央教会を出発し、約6時間。



炎天下での登山で熱中症を心配しましたが、登山道の木陰に助けられ無事全員が「自然の家」に到着。みんな本当によく頑張りました。

広い食堂で揃って食べた夕食は、目標としていた登山を一つになって乗り切った達成感も手伝い、なんと美味しかったことでしょう。



翌日もアスレチックに続いて昼食はBBQ。午後からは学年別でアーチェリーやカヌーなど珍しい体験ができて大喜びでしたが、夜のキャンプファイアーは雨のため残念ながら体育館でのファイアーに切り替わりました。翌日、神戸中央教会でのキャンプ解散式のあと、神戸の子ども達とお別れした福島の子供達も疲れも見せず、宿泊先となった「たかとり」へ。夕食までの間、「ゴロンとする？」とのリーダーの心遣いをよそに「見るだけでいいから海へ行きた〜い」とのリクエストにこたえて須磨の海岸へ。戻って来た時には、みんな何処かが海水で濡れ、着替えが必要でした。ちなみに福島の子供達はキャンプをはさみ、前後泊があり、前泊は住吉の和室をお借りしての粉もんパーティーで開会。食べるより焼くことに夢中になった子供達。エマニュエル・大久保両神父さんにもたこ焼きを沢山食べて頂きました。お楽しみいっぱいプログラムに子供達は日焼けしたニコニコ顔で神戸を後にしましたが、震災から丸5年という月日は、子供たちの成長とは別にそれぞれの環境に少なからず変化があり、なかなか参加に踏み切れないケースもありました。そのことは個々の家庭という小さな単位のみならず、福島で暮らし続けることを選択したすべての人達に伝えることなのかもしれません。忌憚のない5月の現地訪問での話し合いから、これからの支援の在り方を模索して行きたいと思いました。皆さま、ご支援ありがとうございました。心ゆたかなクリスマスと新しい年をお迎えください。（会計報告は別途地区評でさせて頂く予定です）